

37-25668



袖中觀名所記

角
 軫
 翼
 張
 星
 柳
 井
 鬼
 胃
 參
 畢
 昴
 畢
 奎
 星
 壁
 虛
 危
 室
 斗
 箕
 尾
 女
 牛



袖中觀名所記

角
 軫
 翼
 張
 星
 柳
 井
 鬼
 胃
 參
 畢
 昴
 畢
 奎
 星
 壁
 虛
 危
 室
 斗
 箕
 尾
 女
 牛

凡例

○都下士紳名所四巻

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

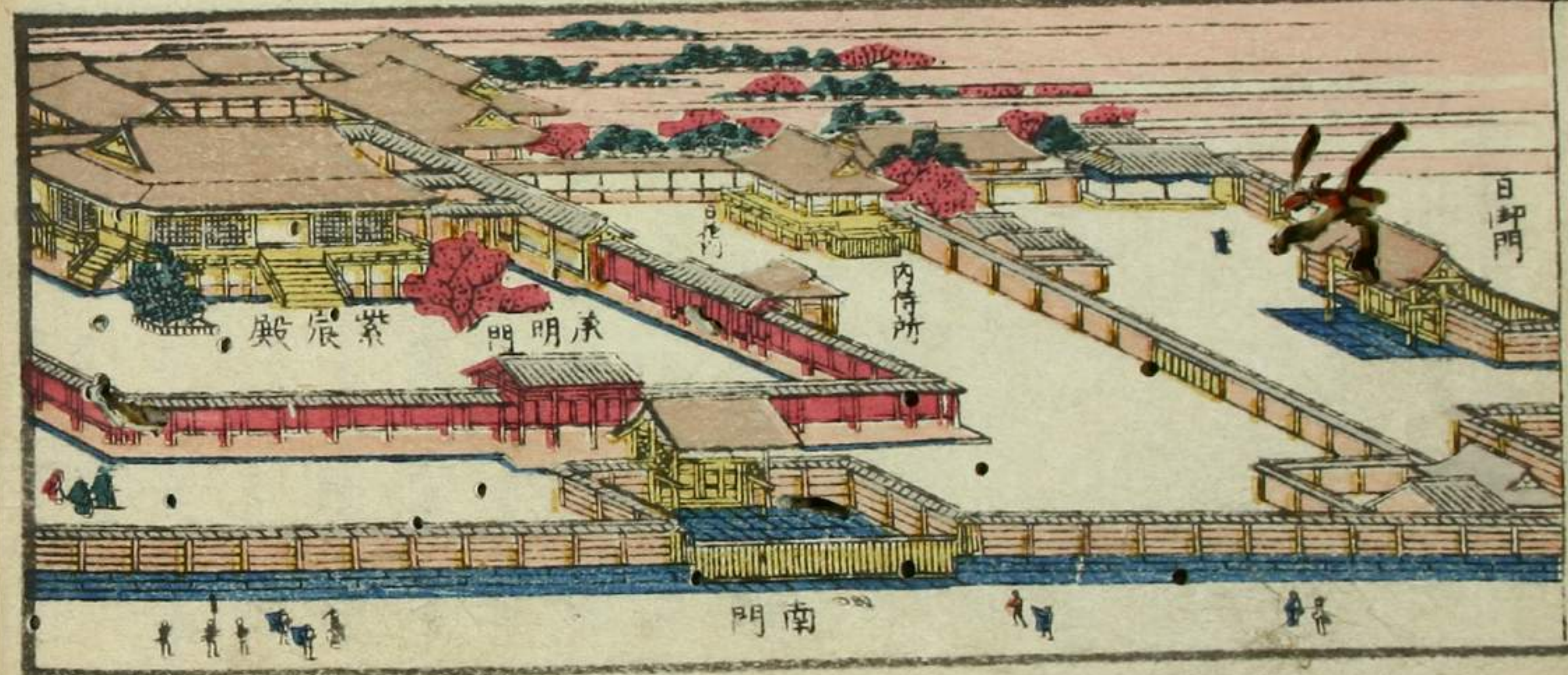
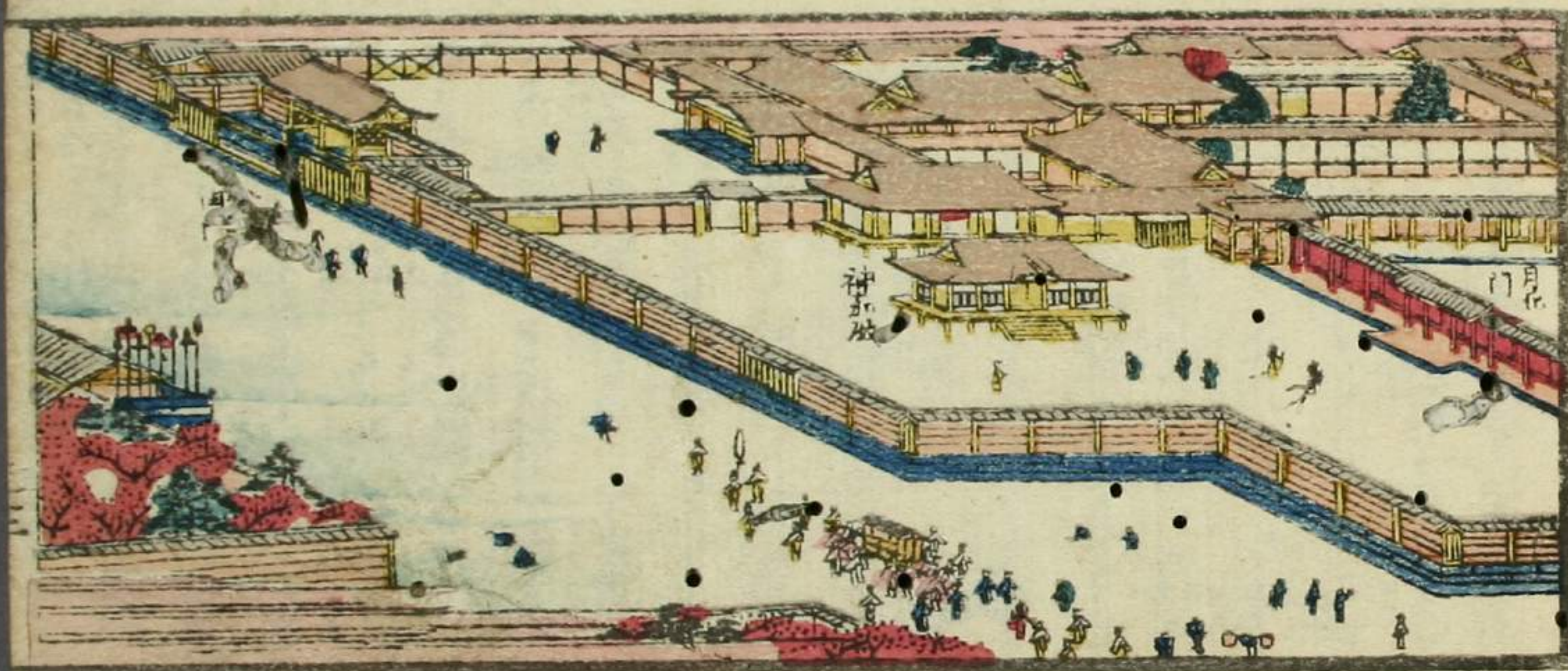
○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

○~~山崎~~山崎の地蔵堂

天保十年五月



○内裏

東の御門西の鳥丸北の
今御所南の丸右河内
東の河内南の北河内の原と
御所構と一里百六十
三つとを数合九ヶ所と
門を御所とて一里百六十
中央ふは御所御所
上の宮ふは御所御所
寺御所の丸右河内
御門鳥丸道の中央
御所御所と中を御所門
下と中を御所御所
今御所の丸右河内の
御所御所あり一里百六十
御所御所と一里百六十
御所御所あり一里百六十

禁裏御所

御所構の中央を御所
あり一里百六十
東の御所と日御所
南門西の御所あり一里百六十
北の御所あり一里百六十
御所御所あり一里百六十
御所御所あり一里百六十
御所御所あり一里百六十
御所御所あり一里百六十
御所御所あり一里百六十

二月三日 御所御所
三月十日 御所御所
御所御所あり一里百六十
御所御所あり一里百六十

より奉りて... 准后御殿
○行方... 准后御殿
けし... 准后御殿
と... 准后御殿

准后御殿

禁裏... 准后御殿

仙洞御所

春秋... 仙洞御所
あま... 仙洞御所
ふと... 仙洞御所

大宮御所

大宮御所... 大宮御所
准后御殿... 大宮御所

洛中神社佛閣

三素大塔... 洛中神社佛閣

六角堂頂法寺

六角通鳥... 六角堂頂法寺
天宮... 六角堂頂法寺

六角堂... 六角堂頂法寺

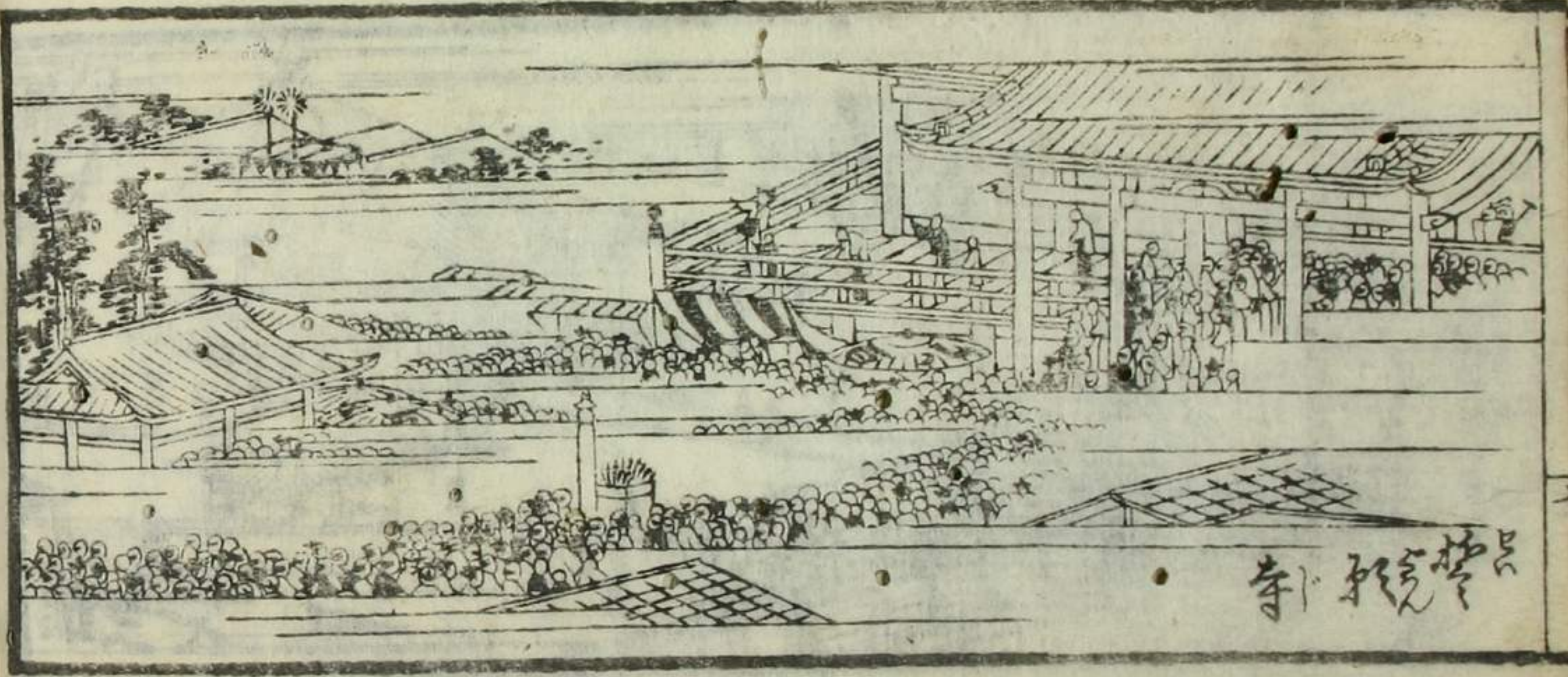
六角堂... 六角堂頂法寺

六角堂... 六角堂頂法寺

六角堂... 六角堂頂法寺

六角堂... 六角堂頂法寺

六角堂... 六角堂頂法寺



聖賢寺

家の世あらん威人分友
 大石能くはあつて徳島の
 婦とやあつた退あつても
 又は古寺附院つらあつた
 の西塔とせし各洪水の水
 祥ととそあつたらつた
 流つたつらあつたつた
 地流の地輪をつた
 千二百三十九年・五二也

大徳寺
 本山持教寺

寺田通六角末

寺の 指つたつた
 深州流義一平山と本流
 つたつたつたつたつた
 仏土留向を本國あつた
 とも春日大明神を新向

長金寺 一言堂

本寺の記を古書に記す
大伴の作。後陽成天皇御
を拜する。・白濁寺

大徳寺

大伴山園福寺

寺河通情業所

寺河 拾八石

源平義一平山平尊

源平義一平山平尊

源平義一平山平尊

源平義一平山平尊

源平義一平山平尊

源平義一平山平尊

源平義一平山平尊

綿天神社 時宗

寺町綿

綿天神社 時宗

綿天神社 時宗

綿天神社 時宗

綿天神社 時宗

綿天神社 時宗

綿天神社 時宗

綿天神社 時宗

綿後山金蓮寺

綿後山金蓮寺

寺阿綿少後下ル

本寺の京法華寺を津
野入田乗る舟と号し
當寺の法例を其の
職に名をうけず
のり

杜納松を後にあり
入をききえの程を
か

○深敷地蔵 寺内
十位に
後放皇太后の御
物

七丁 祇園御蔭所

伊東を寺阿過

威神院 祇園半歌
御蔭所にて毎歳六月

七日より十日まで
基は
を

八王子南の方
八王子南の方
八王子南の方

八王子南の方
八王子南の方
八王子南の方

八王子南の方
八王子南の方
八王子南の方

八王子南の方
八王子南の方
八王子南の方

八王子南の方
八王子南の方
八王子南の方

あまがさうじやう せん
とくも人地不詳也

七丁

あまがさうじ

神池山文重院

寺田屋敷に丁字に
本寺ありて跡に
貞安上人撰田位長公父
子のてめを合の形ふとら
るる創しとら入寺内裏地不
信去云位長公の石碑あり
○ここをへ下松原をまわ
東側ふ寺院連すところ天
正の頃のけさ時り西暦
として後陽の地をまわ客
の命とて市中のち位長公
らふところ入有寺田と
ふびく本名を系柱毎の
名をまかりしと云ふなり

十二丁

佛光寺御門跡

仏光寺を御門跡の中へ
本寺ありて跡に
開基親善上人ゆかり
佛上人中興の源上人なり
第九代月経光をまわのり
子とて天をたて教皇は親
とて戒律とて傳ふ御門
ま礎礎天を御門跡に
林中ありて光御と
あらふところ佛光寺と
勅号しとてなり

十四丁

○三丁

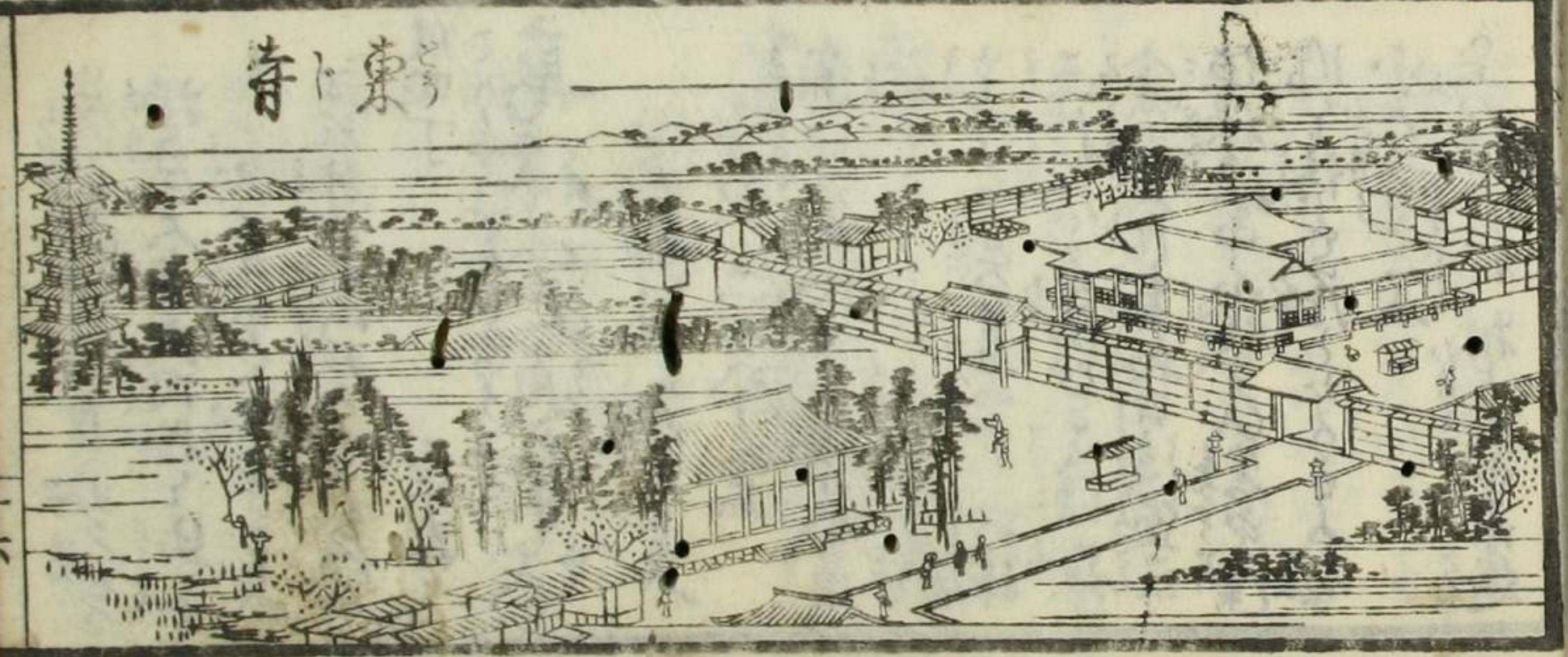
周播茶所平寺

七原茶所院西に有る也

三千石丁
教王護國寺秘密法院

上良八条 東寺と云

生かす家寺殿千工字石
御経くまひ大陣見け地大門
狸の跡後波とらひて奉納
のり天宮と被る示と寺と云
崇徳天皇御行日奉山月取
と大陣の跡の西寺と守敏
信助と云ふ入ふ大陣
御座と建直しりふと云
本堂大陣と書置す大陣
入意の承和二年三月廿一日
そ即 金堂 講堂 合掌
あすこ堂舎あり
○武庫裏にさき北九間横中
又若田御天長三年五月
勅下りし建直と



○飛騨守 九尾通入 出立
指武天皇大内親と遠立
り京と九重不空やま
と此所の通つなりと云
此四丁

萬葉山大通寺

八束柳背の寺と云

寺於 二百八十二石

通寺の元六孫王後基の
御命なりと云法中興
まのら皇を祀りて六孫
王位現と云むは後孫
金右大臣美於法法三
位孫たあふ位ひ言ふ
所を傳と云とかりり
小尾寺と云
○六孫王社 村上天皇出建

立止山 毎歲九月
以新穀重なりは
中初永年中
田原うま
子狂歌
又この年
うま

岩原城所

ね東南
西新

此郡
三層
是利
此
葉
く

安宅と申すは長三の口給文
如くして言程の存せし様
當三平と申すは

信山と申すは加茂清公の撰
本堂の末代かありて直
言ふして詳奉と申すの
所記ありき程あり
その外流當は令後記

十下

七下

此宗と申すは也堂

相兼通極川舟入

津太宗

極楽院光徳寺と申すは

本堂の末代かありて直
言ふして詳奉と申すの
所記ありき程あり
その外流當は令後記

と申すは當堂と申すは
宗との六流と申すは確念化

境内八坊あり有極楽院

なり常小宗と申すは

西果末と申すは市中

名をとりて一月九日

と申すは根すは年中

病と申すは人々申すは

病と申すは死すは

病と申すは死すは

病と申すは死すは

病と申すは死すは

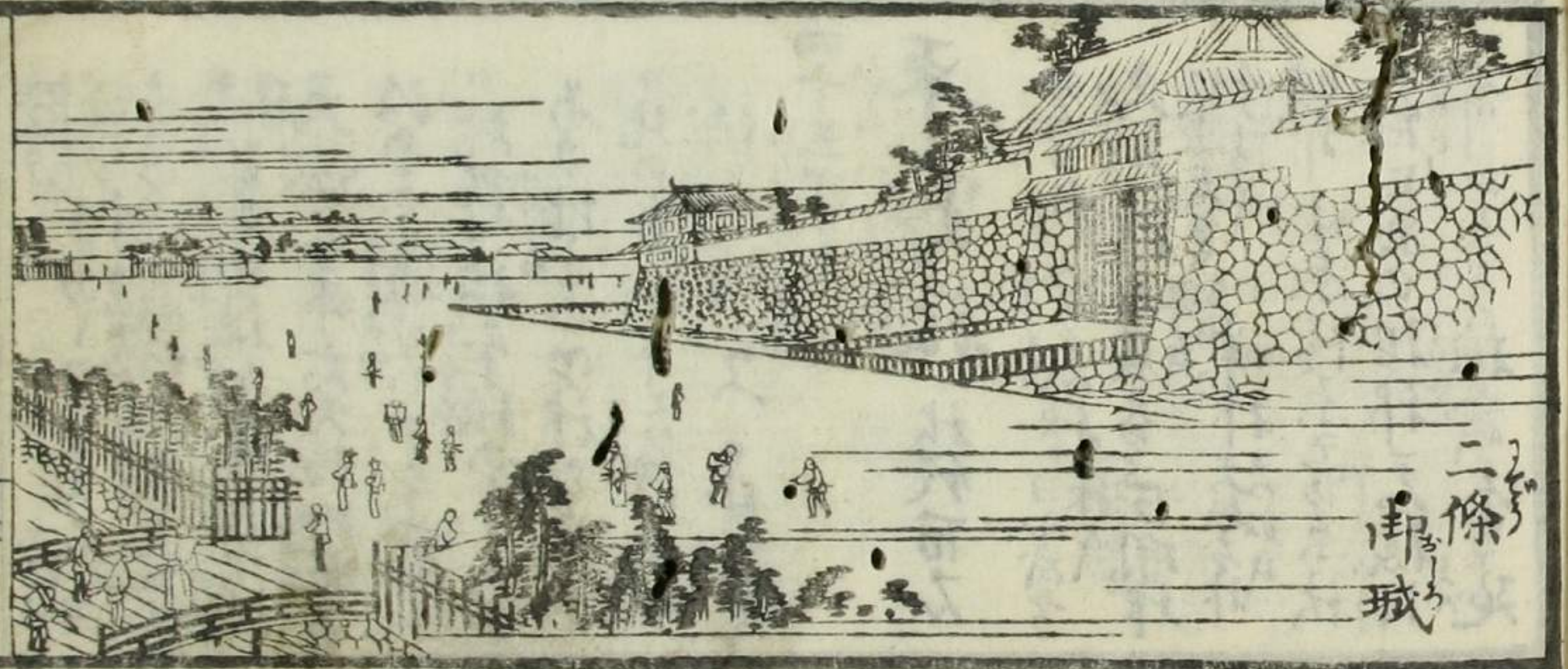
十七下

神泉苑 志々宗

所地通去入西入

寺院 田千石

善女地且と申すは
は本乾池と申すは



二條御城

十六丁
二條御城

北野天満宮

北野 八丁
 中央菅神 東園中
 西園 天長三年七月
 北七条の文をとりつる

神中の封境用として天子
 御座の元は小野小町殿
 御座とあるは、
 若女御王を御して年終
 の懸いです、
 若女御王を御して年終
 の懸いです、
 若女御王を御して年終
 の懸いです、

神代 寺の遺蹟と力とを在せ
たる所を建てるは
天徳三年右大臣師輔云
改めし遠くあり
北野社を法のもの
あり地との山神あり

北の方面と谷川あり
紙屋川と云ふ。此の
四十三丁

平野社 社伝百八

今武吉
久成神仲哀香古所神
仁徳天皇 比叟神天照太孫
けり 中系 清系 宗系 秋
命あり 相武天皇 延

昔年中 小建 あり
の道 花 あり
孫系 あり
あり

金剛寺 法苑院と

山 あり
後 あり
軍 あり
の あり
三 あり
と あり
一 あり
と あり

廿九丁
惠照山淨徳寺

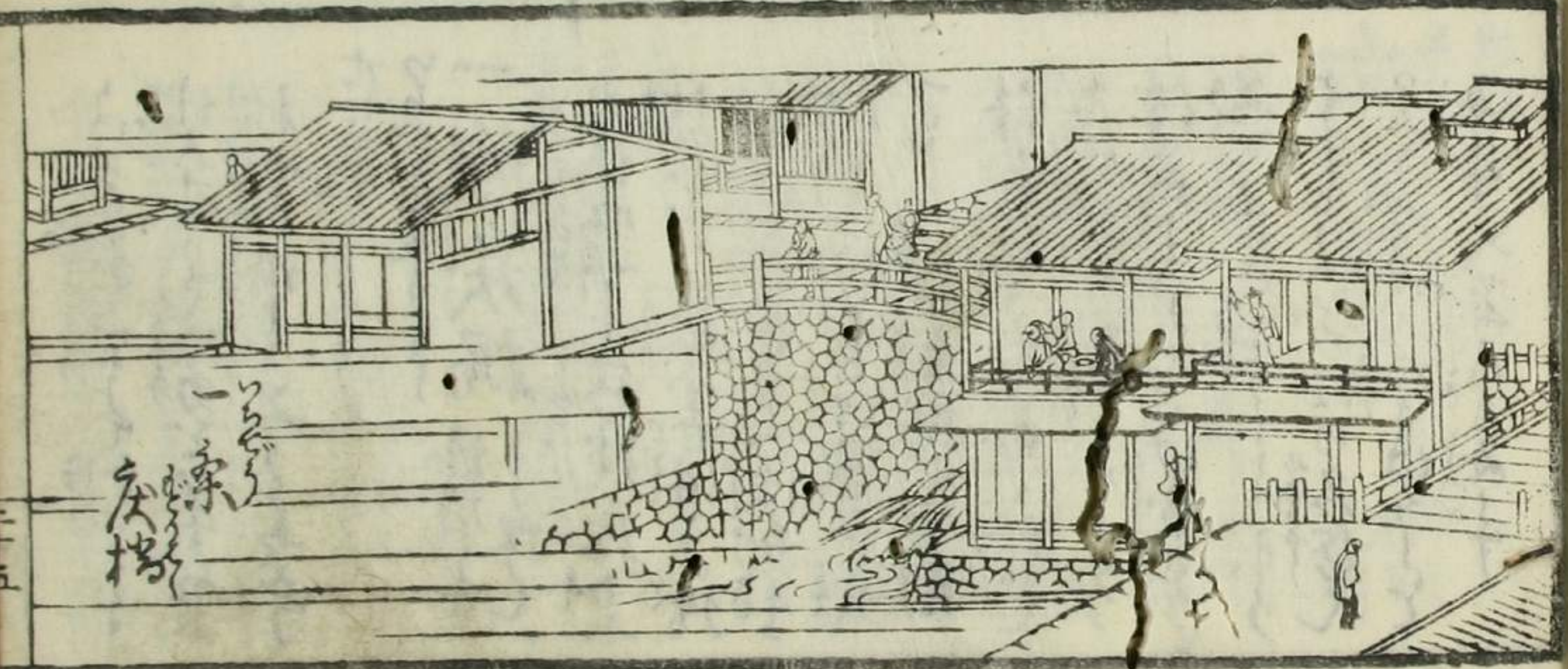
一乗寺を平入

浄土宗

本寺の御縁を御二天
弘法大師御開基浄土宗
上人。善壽寺より勧修寺の御
あり名を御とす。二丁あり

三十一
安徳山天徳寺

浄土宗一町西浄土宗
本寺の御縁を御二天
寸前公作御縁天徳寺
を御とせし事と御して一
七日に御縁七日の御縁を
の二寺の者を放て空に御
お徳の御縁と御して御



一乗寺
浄土宗

よきものを写して刻する
化人ありくゆかたかなし
林明の他もさう。長年

七七丁

一條庄楊 海川

此の世の世に
書信明の士
法
所
後
久
後
又

北八丁

瑞龍寺宮 中野

西
御
母
う
巨
方
三
三

竟天山報恩寺

小川
海

本
果
中
申

金^が仁^に牙^がを^り利^い良^り智^が善^が
院^の持^り守^りた^りて^も堂^の阿^の女^の
庭^の細^りめ^り又^も阿^の女^のの^あ
魚^の四^の明^の海^のの^あ
俗^の南^の火^のか^きと^りて^も人^の

三十三

〇二丁

奥^の山^の心^の願^の寺^の

も^の心^の寺^の

是^の寺^のは^もの^の心^の寺^の
天^の皇^の親^のの^の心^の寺^の
此^の寺^のは^もの^の心^の寺^の

南^の寺^のの^の心^の寺^の
の^の心^の寺^のの^の心^の寺^の

奥^の山^の妙^の人^の寺^の

新^の阿^の比^の法^の親^の也^の

此^の寺^のは^もの^の心^の寺^の
此^の寺^のは^もの^の心^の寺^の
此^の寺^のは^もの^の心^の寺^の

切の上巻有町為丸ありて
林の中内なる所なり山
号なりなく。月代を
その美しきつらさなり。二丁也

廣山三念禪寺

浄業院あり

寺の
此寺はもと名僧ありて
其の徳を以て信者ありて
遠近の僧徒病し死なば
之を治すに力を盡す
其の徳を以て信者ありて
夜病止むに力を盡す
大僧中無後を人なり
念の徳を以て信者ありて
のきこ月代人なりと云ふ

土の徳を以て信者ありて
山のこゝろを以て信者あり
真山寺と云ふ

元二大僧像あり作
十二丁 一町也

中洲神社

本所廣
山後と云

上洲大西流物より毎年
七月十八日祭事八月十八日と
三十日より祭事神中実
人祭りの祭事なり
其の徳を以て信者あり

九町 一町也

小洲神社

本所廣
山後と云
此の所と云ふは旧
祭事と云ふは旧
氏子の田舎と云ふは

神代小からる後天正十八年
造立とて長廿七間身中
石を定て久に本邦を橋
とて造立しけり橋を造ると
そり擬て橋の造り

洛陽三條之橋至後代
化度往還人盤石之礎
入地五尋切石之柱六
十三本蓋於日域石柱
橋盤龍平

天正十八年庚寅正月日

豊臣初之御代奉

増田右衛門尉長盛

造之

橋下鴨川の東端に北東橋
の礎を造りて其の礎を
石を定て久に本邦を橋
とて造立しけり橋を造ると
そり擬て橋の造り

橋を造るとそり擬て橋の造り
とて造立しけり橋を造ると
そり擬て橋の造り
とて造立しけり橋を造ると
そり擬て橋の造り

大橋東詰

檀王法林寺

本刹は延暦寺の末流にして
檀王法林寺の末流にして
檀王法林寺の末流にして
檀王法林寺の末流にして

聖蹟なり

廿

聞法山頂妙寺 二条 川原

は華宗寺の聖蹟云

今昔書目録に大徳の二天

聖蹟の要領の書に云て

此寺は新羅の南の郡に

在りて其の創中は梅原

の寺に因りて其の地を

石に會合をて其の地を

ち申す又天の來りて其

十 平北

聖蹟院社

此社之新の後に其の

物に其の聖蹟の書に

其の聖蹟の書に云り

此社の書に云り

十一

平北

聖蹟院宮中其の書に

修驗通判中山 儀義大

白書に其の聖蹟の書に

十二

平北

其の聖蹟の書に云り

田中村 寺の書に云り

其の聖蹟の書に云り

其の聖蹟の書に云り

其の聖蹟の書に云り

其の聖蹟の書に云り

其の聖蹟の書に云り

しんぎんを新除せりぬらるる大
一七日のちのちの竹屋もやう
念仏は十車一百万遍とふ
行て腹筋あ止むおし百易
遍のちててまへ入・一平

廿三

干菜山実満寺 ちんさいざんじつまんじ

六舟金仲のちんさいざん満寺
ふふ干菜山とせりてふふ
山とせりてふふ干菜山とせりてふふ
六舟金仲とせりてふふ

一五下

一五下

御座屋社 ござやじや

石の二種 いしのふたしゆ
石の二種 いしのふたしゆ
石の二種 いしのふたしゆ

一里半 いちりはん
一里半 いちりはん
一里半 いちりはん

赤山社 あかやまじや

赤山社 あかやまじや
赤山社 あかやまじや
赤山社 あかやまじや

林丘寺宮 はやしやまじやみや

林丘寺宮 はやしやまじやみや
林丘寺宮 はやしやまじやみや
林丘寺宮 はやしやまじやみや

修善寺御茶屋 しゆぜんじごちや

藤田敏 山家外
あまふし

林紙御司

十九町 吉岡社 社外

日本名一林御場本社
大元宮より日本林紙二十

一町二十石を造る
法和天皇御宇貞観子

御後社に大間瀬の足

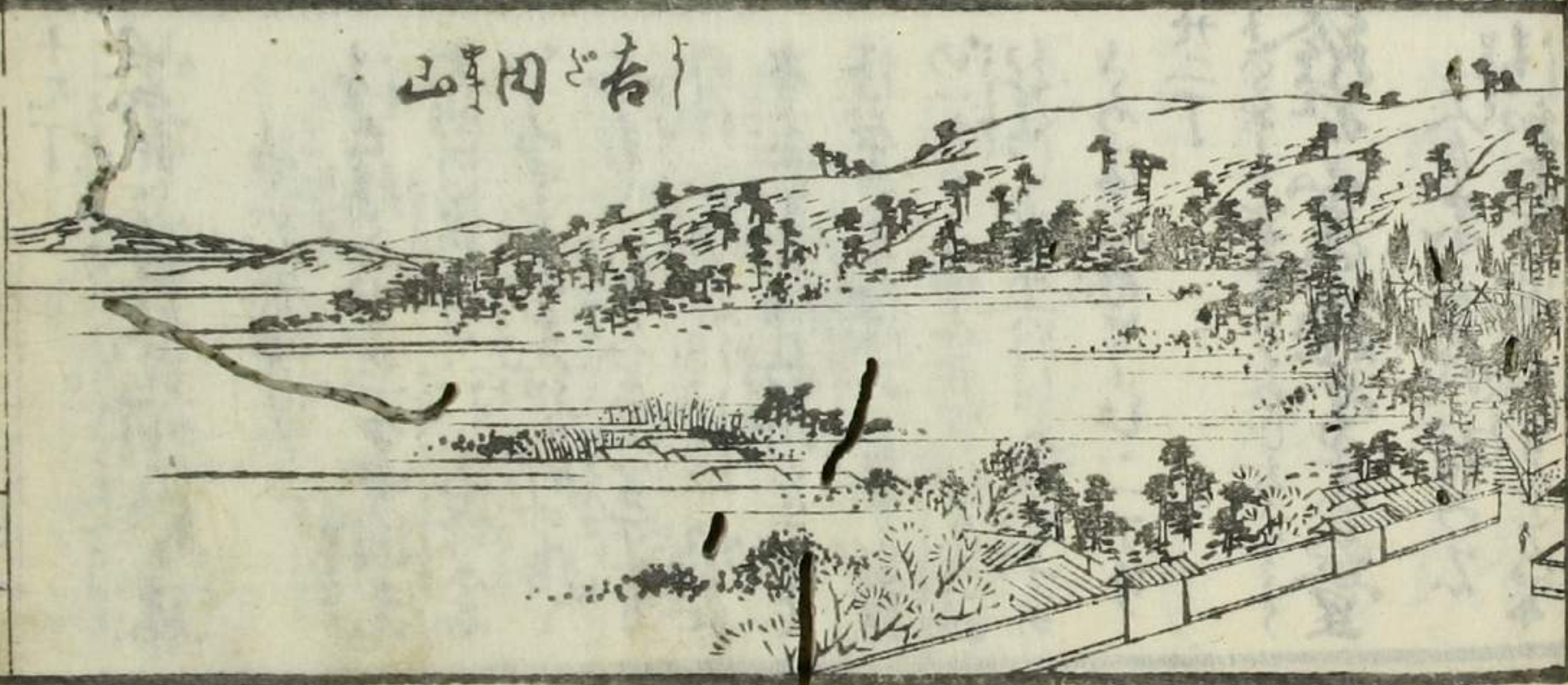
林紙出ありあり今
林紙御代よりい

二十町 山家子

東北院 山家

本寺より分ち天信大徳所

御堂園白くせ云出所
新宮寺 和歌山県



吉岡山

此書は寛文九年刊行

寺の百子云

法王法西の... 大師の... 寺の... 寛文九年刊行

法王法西の... 寺の... 寛文九年刊行

法王法西の... 寺の... 寛文九年刊行

基を... 大師の... 寺の... 寛文九年刊行

善喜山万善寺

善喜山万善寺... 寺の... 寛文九年刊行

日蓮山安楽寺

日蓮山安楽寺... 寺の... 寛文九年刊行

小田原のふみ
御堂院のふみ
御堂院のふみ
御堂院のふみ

靈鑑寺宮

御堂院のふみ
御堂院のふみ
御堂院のふみ
御堂院のふみ

浪周寺

浪周寺のふみ
浪周寺のふみ
浪周寺のふみ
浪周寺のふみ

正東山美玉子

正東山美玉子のふみ
正東山美玉子のふみ
正東山美玉子のふみ
正東山美玉子のふみ

天香宗寺

天香宗寺のふみ
天香宗寺のふみ
天香宗寺のふみ
天香宗寺のふみ

大徳正統寺 浄行は親王
御任職

○この御院 在る元三郎

り作南面大徳寺と云ふ

○金持寺 大徳寺と云ふ

○この御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

八丁

花頂山 浄堂 浄行

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

五丁

華頂山 浄堂 浄行

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

○此の御院 大徳寺と云ふ

御書奉書等の御地多う
古本とてその御地多う

六丁

五丁

威神院紙屋社百景

寺田寺田寺田寺田寺田寺田

三月十八日古本紙屋社

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

園山安楽寺

時宗
八平

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

御地多う御地多う御地多う

年中^{あひん}法和^{ほわ}恒^{とこ}し
至^{いた}後^ご國^{くに}河^がと^と入^い不^ふ附^つと^と
た^たす^し時^{とき}を^をと^とる^る傍^{はた}中^{ちゆう}
六^む寺^じあり^り地^ち雲^{うん}を^を河^が孫^{そん}
連^{れん}河^が孫^{そん}也^や河^が孫^{そん} 西^{せい}河^が孫^{そん}
左^さ河^が孫^{そん}が^がも^も傍^{はた}を^をな^なる^る
早^{はや}も^も不^ふ造^{ぞう}り^りを^を信^{しん}より^{より}も^も
一^{いつ}解^{かい}不^ふ市^し中^{ちゆう}と^とを^をな^なす^すと^と壯^{さう}
後^ご体^{たい}不^ふか^かま^まび^びあ^あし^しの^の意^い
天^{てん}土^ど名^な能^{のう}力^{りき}を^を用^{よう}者^{しや}を^を昇^{しやう}
勢^{せい}結^{けつ}と^とら^らる^る古^こ水^{すい}社^{しゃ}傳^{でん}の^の
也^や乃^の乃^の水^{すい}也^や

十町

・苗井

東山長来寺 はるやま ながらい じ

軍^{ぐん}を^をな^なす^す地^ち雲^{うん}を^を河^が孫^{そん}
上^{かみ}月^{つき}に^に流^{なが}る^る水^{すい}と^とあ^あら^らむ^む
本^{ほん}も^も十^{じゅう}二^に町^{ちゆう}の^の長^{なが}来^{らい}寺^じ也^や

おんりのり

十丁

・苗井

東大谷 ひがしおほや

今^{いま}も^も東^{とう}大^{だい}谷^やに^にあ^あら^らむ^む
東^{とう}大^{だい}谷^やに^にあ^あら^らむ^む
安^{やす}河^が孫^{そん}の^の地^ち雲^{うん}を^を河^が孫^{そん}
創^{はじめ}り^りと^と元^{もと}徳^{とく}永^{えい}年^{ねん}中^{ちゆう}再^{また}建^たす^す

十丁

・苗井

金玉山世徳寺 きんぎょさん せとく じ

時^{とき}宗^{しゆう}ち^ちの^の世^せ徳^{とく}寺^じ
古^{ふる}の^の天^{てん}台^{だい}宗^{しゆう}の^の別^{べつ}院^{いん}也^や
最^{さい}大^{だい}作^{さく}の^の地^ち雲^{うん}を^を河^が孫^{そん}
中^{ちゆう}時^{とき}宗^{しゆう}と^と改^{かへ}ひ^ひを^をな^なす^す
昔^{むかし}の^の地^ち雲^{うん}を^を河^が孫^{そん}
田^{いり}大^{だい}寺^じと^とな^なす^すの^の地^ち雲^{うん}を^を河^が孫^{そん}
今^{いま}も^も東^{とう}大^{だい}谷^やの^の地^ち雲^{うん}を^を河^が孫^{そん}

とら天竺王孫の心身成
よきと人の眼するあり
○天竺王孫の心身成
十二

八坂法記寺
は昔伽藍を建てて智徳を
子の建立を成癒えんとて
今又重なる塔を建てし
地味津新築を所住し
は後世にまゝ浄土を成癒え
たして初会をすべし
なりと元の時とす

九下
西國寺
ち於七十八

普陀清空波羅密寺

本寺の十一面観音の像天
宗也上人作天徳二年建
立す本寺の波羅密の
上人の像を成癒えんと
申す本寺にてまじり供の
所を成癒えんとす例の人
を成癒えんとす
よきと人の眼するあり
とす本寺の波羅密の
は中絶するは南を建
しては像を初むる一丁
十

六乃孫の寺
建修中
本寺の波羅密の像天
教大師の作を成癒え
初むるは南を建
安を成癒えんとす
通ひしとす

通ひしとす

例年七月十日 浴下の男女
け縁のつきを結ぶと云ふ
このゆかり解糸おびさく

二年坂 八坂より西へ

建直のつら日二年にけたと

ひくかねをなく一説に安親

まゆりなる史者多坂といふ

。こまきうけは水陸用なり

経書高書 二年坂石橋の

まきまきおとあたるをきくお

まきまきおとあたるをきくお

大目おと大目おと大目おと

子安おと子安おと子安おと

おと子安おと子安おと子安おと

おと子安おと子安おと子安おと

おと子安おと子安おと子安おと

おと子安おと子安おと子安おと

おと子安おと子安おと子安おと

おと子安おと子安おと子安おと

おと子安おと子安おと子安おと

おと子安おと子安おと子安おと

青羽山清水寺 百世に

西園寺にありし所を十一

面寺に親善直徳のつら日

上田村に在る大目二年

通云六條村 歸りにて在り
北平の郡 平とて在り 夫の無
とありて 北平とす

北四丁 四丁目

欽中山法興寺

本寺も 子に親善有る像 二天
管神 山内南寺 近曆 正年
紹徳 正年 五刻 きののち 最
おやびい 二条院の 中宮 依
よの再建。きん 余院 六条院
の隣 小智 有る 境あり

五丁

本持寺

目親上人の 遺像 あり 本持寺
十卷 日通 上人 不具 身ありて
目親 上人 全の 筆の 跡 見ゆ

堀や 再建す

。けし とも あり 山 又 あり
あり 大 智 寺 境内 あり

十五丁

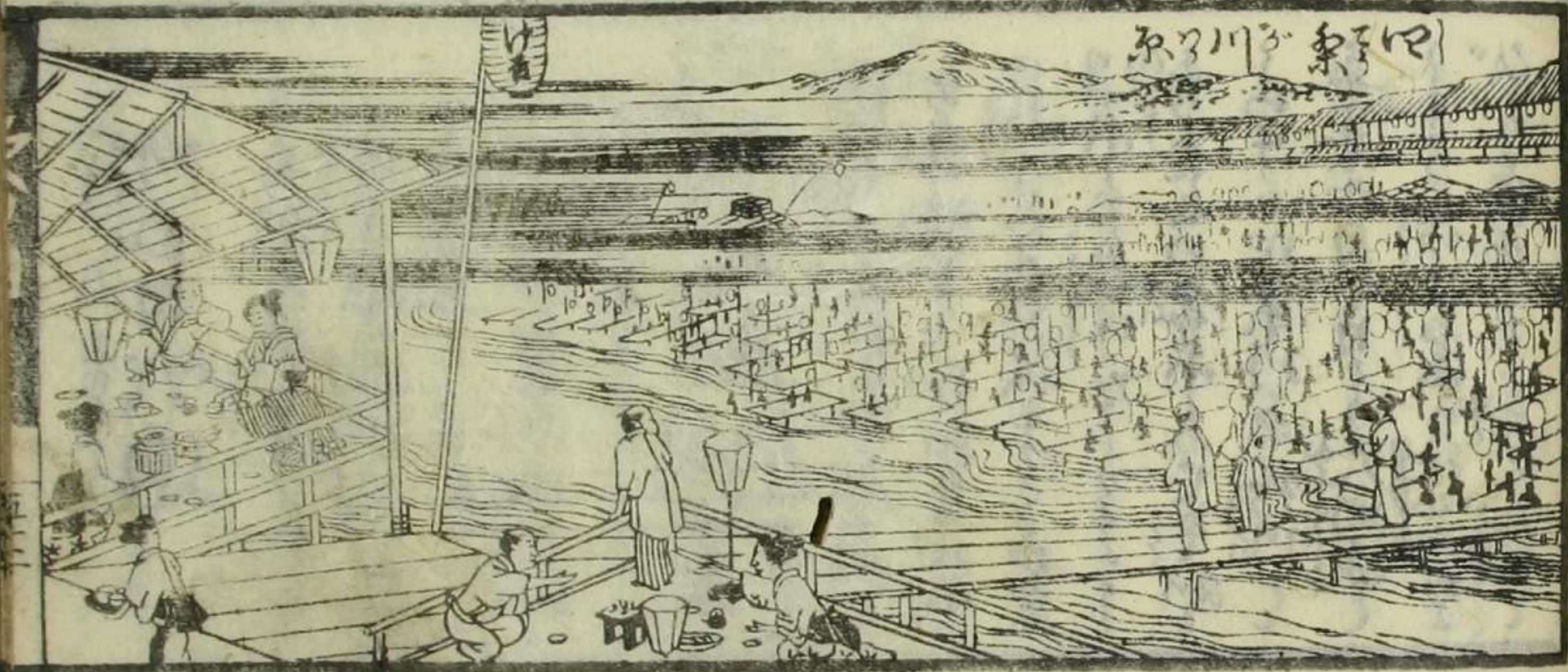
安祥院

堀井 所 あり 院の 法 あり
本寺も 山内 南寺 二天 上人
の 他 并 善 寺 あり 善 寺 あり
本寺 寺 あり 上人 の 中 宮 梅
善 院 あり 本 寺 あり 善 寺 あり
本 寺 中 建 立 あり 地 あり 善 寺 あり

西光寺

本寺も 山内 南寺 二天 上人 あり
善 寺 あり 本 寺 あり 善 寺 あり

大谷



東江の川舟

穀類を運ぶ舟の多き所にして
 舟の往来は水が急なるゆゑに比大
 谷ありて舟を長き申け
 舟の往来は別個に舟を大
 谷と稱す

栗谷

栗谷の舟の多き所にして
 舟の往来は水が急なるゆゑに比大
 谷ありて舟を長き申け

袋中巻

舟の往来は水が急なるゆゑに比大
 谷ありて舟を長き申け

大條大船

舟の往来は水が急なるゆゑに比大
 谷ありて舟を長き申け

舟の往来は水が急なるゆゑに比大
 谷ありて舟を長き申け

次の日吹道

。三條大橋東詰とあり
備前通と大和太極とあり
大和御所とあり
備前通東の方紙屋町
北新 西の方

三條芝居

清つゆきめあふとる若と
ふみまじとくむ初め北野
の社まふも板まこも東
川原と身りかきとる
若者との命ふりて是れ
うのす。伊東川名
毎来六月七日より大納言と
いふもあつた西の松屋
いふもあつた西の松屋

ついでに松屋と清つゆき
又西の方松屋とあり

庭とついでに松屋の松屋川
系を埋ひ日本とあり

なり。川の西岸とあり

東に東と北と川原を南と
文川田といふ古くあり

いふもあつた西の松屋

仲源寺

本寺地蔵菩薩を中より
目録地蔵といひ眼病の人
に効ありとあり
あつた西の松屋

東山建仁源寺

六丁 五山の
中とあり

香道不本... 付成...
ゆめとら... 世を名訓

十九丁

新日吉社 後白河公家
鳥居の形不... 再興...
好は境... 再興...

廿丁

智積院 寺は区...
寺は区... 寺は区...

平山正徳院
寺は区... 寺は区...

廿丁

吉原院 天名宗

寺は区... 寺は区...
寺は区... 寺は区...

廿二丁

寺は区... 寺は区...

寺は区... 寺は区...
寺は区... 寺は区...

廿八丁

泉涌寺 寺は区...
寺は区... 寺は区...

寺は区... 寺は区...
寺は区... 寺は区...

寺は区... 寺は区...
寺は区... 寺は区...

寺は区... 寺は区...
寺は区... 寺は区...

寺は区... 寺は区...
寺は区... 寺は区...

寺は区... 寺は区...
寺は区... 寺は区...

三十丁

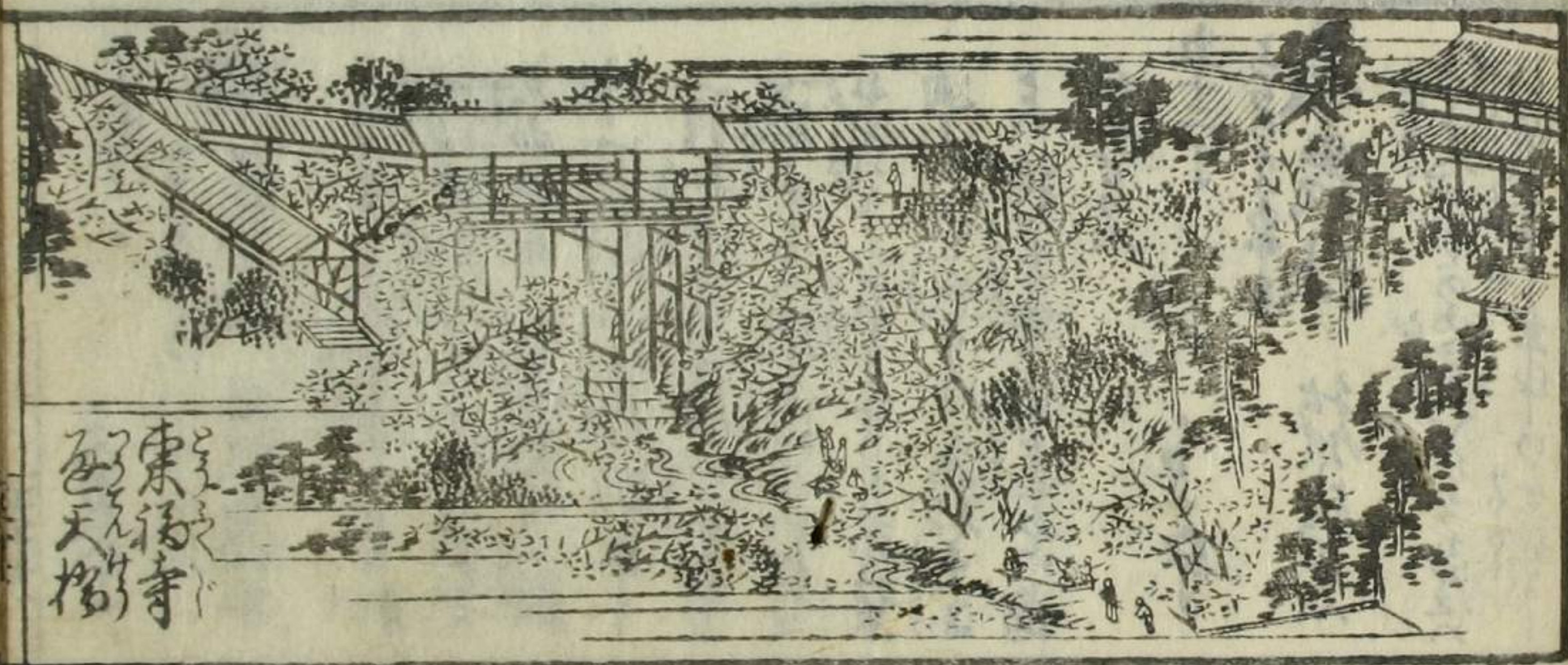
寺は区... 寺は区...
寺は区... 寺は区...

春高にけしと申作
○ころより六丁の坊を廻るに
少くは入る

廿三丁

惠日山東福寺

五山の中心にありて七百十室の
真光院寛元元年九條実
白道家公延喜用公臣國師
七雲仙堂を奉り親かた傳又
尺招土記書唐中氣を傳二
丈空を命り美之玉小島守後
の遷變記書十八天流北敏
の争。毎年十一月十日に度
繁徳大幅りて惠日山を
知法事金を難くして二月度
大なり。通天橋洞氷の上
よりの庭に下りてみる



東福寺
通天橋

いりんらんが
名橋松高西園士もた
作し文林の類

。まよる忠孝の書入卒丁又
南正三丁のり上安山

二リ八丁

日野美作巻 はらのりき

本寺の美作令相の縁由

寺より日野大中の縁由

の事釈して本寺の縁由

。在入乳のあきまの縁由

二リ半

柳大明神 はらみ

天女出骨の縁由

二リ半

西ノ芳寺

本寺の縁由は天女出骨の

事より一日の縁由は縁由

とらふの縁由は縁由

二リ半

黄檗山延福寺 はうはくさんえんぷくじ

本寺の縁由は縁由

建立開山の縁由は縁由

後方の縁由は縁由

元来縁由は縁由

万暦二年の縁由は縁由

三リ

明皇中

西ノ芳寺

在る關原権舎の立像八寸
此の字は常楽の字を以てし
伏す子に親まき先仁天會
の中に入つて智徳大徳の表
ひるに陸陸石を居す帳の
右邊より 八丁

三万余

常光寺放生院 揚寺

在る地を井田を云ふ所
相傳ふ所揚造の所建直

日所

離文八情文

在る所を井田仁徳二帝に
鬼道なるを云ふ所

三万余

佛徳山母心寺書院

仁徳二帝の御所
軍を以て元和年中
古政再建。尚書省の所

日

朝日小巻の院

在る大自の院は古所の地
軍を以て元和年中
像を門の中を造つ。此の
是を以て軍持の院の女
形を以てして之を指す

三万余

宇治揚 守大比

照りたる所と違ふ揚の
一問がう張物をいふ下
おはしりたりと云ふ所
のわて及びのわてと云

橋本社 室屋あり

碓氷天宮のときある
女像の北山を松明拂く
まうてけ川を堰きいへ
ふ鬼女とたりとむすらん

三万余

平坐学院 室屋あり

永正六年春高野道之建
立に故の風風とありた夫
の白布とありて後の布
と尾とす標し 堆積の風風
つり別ち風風とす
○府是治業に年俵二倍
輕政り言のお徳さうひか
物取束と云 澄くひまふさ
。そより川を堰て堰とすけ

と卒丁りも伏見を後
とふいころけ徳とあり
りけは巨椽大池の屋とて
南朝御道なり。

三

三万余
三万余
百十間

伏見の院を築きありとす
指月山月橋院 徳宗
かり香香の所代げなり
ふまかきを後きといふ人の新
をむありとより後とす

三万余

指月山月橋院 徳宗

中子親がや高院の向
秀吉も徳宗の院なり

○ 浄土院 徳島市出羽
○ 文徳坊 寺島井
○ 蔵院 徳島市出羽
○ 子館 寺島井

○ 東坊

○ 浄土院 寺島井

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

○ 浄土院 徳島市出羽

横川中寺

浄土院 徳島市出羽

浄土院 徳島市出羽

浄土院 徳島市出羽

浄土院 徳島市出羽

浄土院 徳島市出羽

浄土院 徳島市出羽

浄土院 徳島市出羽

浄土院 徳島市出羽

三ツリ

松尾山鞍馬寺 古伝
二百廿八

びんがんとんごう
あるはびんがんとんごう

親王吉徳 天徳院

喜像 山陰

南守 山陰

古唐土 山陰

伊勢 山陰

傍山 山陰

おの 山陰

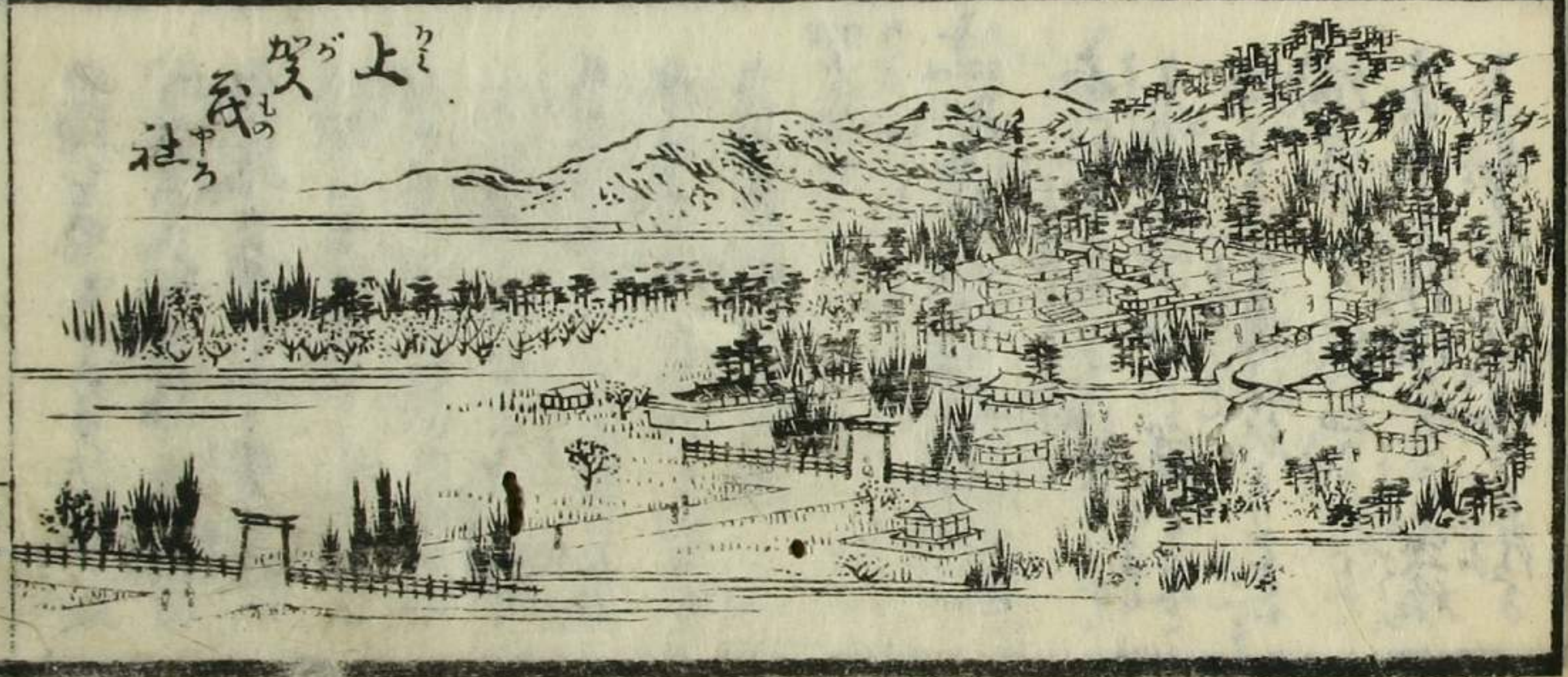
三ツ七丁

貴布祢社 社伝
十二

系 山陰

と 山陰

舟 山陰



上 カガ
笑 カガ
社 カガ

の組とのごまかすいふ事
いりせのたき後より俗に
縁結の林と云ふ。奥の住
八町。年々いづる川筋ふ
けりてりづ。廿三丁に
このせ村七丁のく市
善治の落る。此小川の古
車係る係あり。二十
たのり情状なり。

四十三丁

上智の天明社 社元

本社分置る古林
と傳の法より山嶽
社とて平素
法をわたり後
まよる作地
く其入るの社

とてわたりてり
年中
ども社中
期日ありあり六月
より七月朔日社あり

下鴨社 社元

本社亦社
五氏天皇
とてわたりてり
○此合社
○其
社中より
まよる
○十月中
も

次の目録

二条大橋より西宮三ツ
条のあふがまきまはるの敷
ありとこと廿丁はこい
ふかう川原の内村あり

四十二丁

高木茶屋廣海寺

ちん
六百五

宗廟より推古天皇の御宇
秦川橋造立せしむる宗廟
やまを徳二天神作と云
あふがまきまはるの敷
の像と要する南も橋の名
所なり
○是より惟も辻あんと橋
とて上さが親かきま
る十八丁まはるの敷と
十二丁あり

六十二丁

高木茶屋廣海寺

ちん
六百五

宗廟より推古天皇の御宇
秦川橋造立せしむる宗廟
やまを徳二天神作と云
あふがまきまはるの敷
の像と要する南も橋の名
所なり
○是より惟も辻あんと橋
とて上さが親かきま
る十八丁まはるの敷と
十二丁あり

六十二丁

ちん
六百五

高木茶屋廣海寺

ちん
六百五

宗廟より推古天皇の御宇
秦川橋造立せしむる宗廟
やまを徳二天神作と云
あふがまきまはるの敷
の像と要する南も橋の名
所なり
○是より惟も辻あんと橋
とて上さが親かきま
る十八丁まはるの敷と
十二丁あり

六廿二丁 山ノ名所

山ノ名所 梅の名所
飛山は安和して古中の
梅をくわくめりて山ノ名
く梅とて山ノ名をい
て。かゝる山をいふは
そと氣色りなれども
昔年の梅は世に
大井川の流とて
かゝる山をいふは

大堰川 桂川も上舟
保津川も舟をいふ

大川 桂川も上舟
保津川も舟をいふ

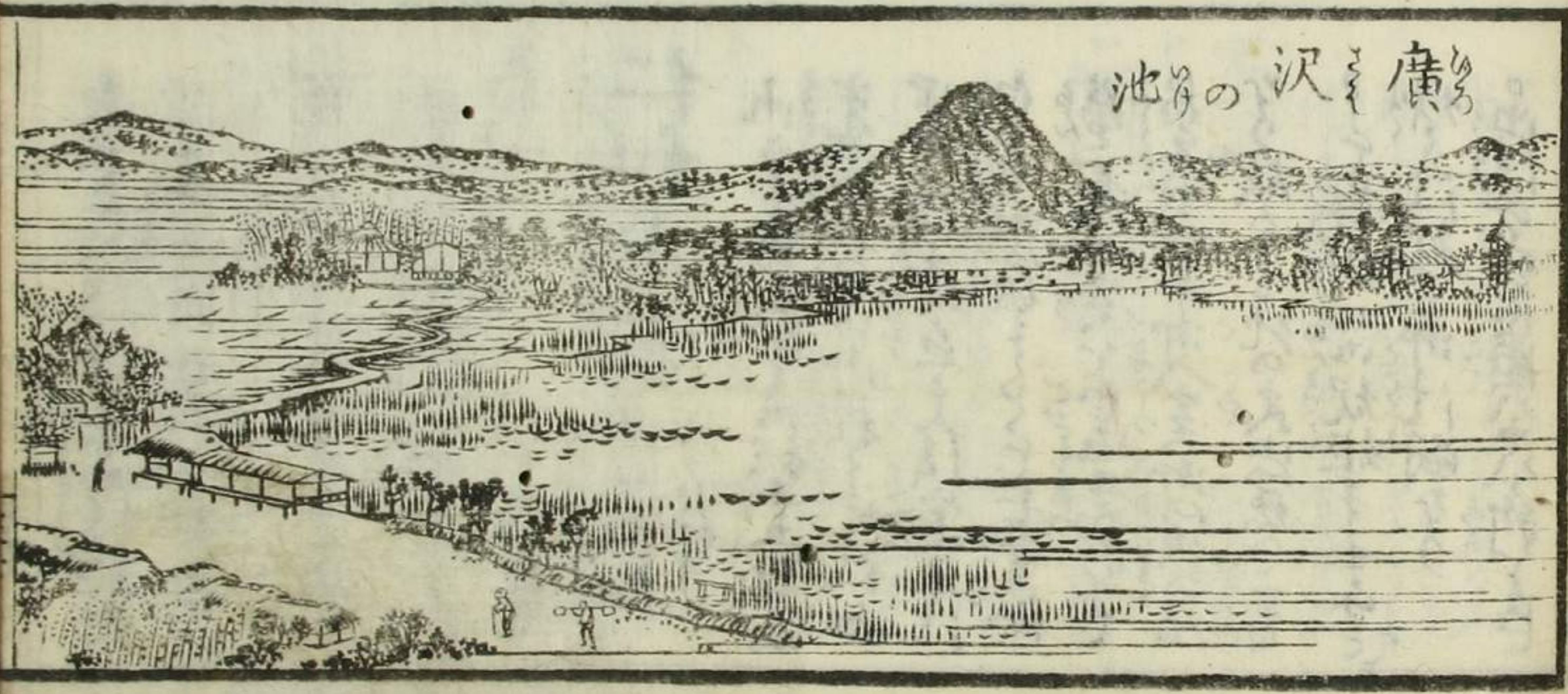
大川 桂川も上舟
保津川も舟をいふ

六廿五丁 野宮

野宮 延暦廿二年
桓武天皇の御宇に
桓武天皇の御宇に
桓武天皇の御宇に

六廿八丁 小倉山三ツ院

小倉山三ツ院 延暦廿二年
桓武天皇の御宇に
桓武天皇の御宇に
桓武天皇の御宇に



廣沢の池

新宮有吉と新宮吉八
 恒舞は親王付法親王の
 伯城 大の方十郎
 廣澤池 月中吉系
 遍照寺山池のり
 乃海上人庵室
 希とり池 庵室
 鳴瀬如光寺
 此寺新伽藍を造りて地を
 御くつら内大臣御経云書
 男右左衛門右衛門進満の
 別業を寺とかりて三寺
 併小川ありて屋敷屋宇
 泉谷は花守 寺
 泉

本寺の御願に依りて
字書百拙和尚・三丁にて

印令と出雲好光寺内

寺内印方惣代人等

五丁

仁和寺宮 御願所

仁和寺宮の御願所
光孝天皇の御願にて仁和
元年秋建立す。後寛平法
皇御宇に御願所として七堂伽
藍并に山室と御願所ありて
昌泰二年御願所を御願所
なり故令も地の文出願の上首
として格別の出願所とす。其
後仁和寺御願所は嗣なり
。出願の御願所八十八箇所とす

仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所

五丁

仁和寺宮

仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所

五丁

仁和寺宮

仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所
仁和寺宮の御願所

四十五丁

寺持院 五里余

本寺の持院并に寺を修す

名園作是利を以て建す

四園風を中と稱す

尚の趣万葉中と記す

十二丁の末傳あり

はつたの末傳あり

けふは九十里余

おのの西院村より太の方

三果余

たうとさんどんご

寺唯山津渡寺 五里余

先仁天皇の御宇和氣法皇

勅とすしと遠近人の考の

本寺の末傳を承て人の御本

以は大師他國院は法を

高き君室の御山也

ありんまは大師を奉る

三果余

法尾山西明寺 二十里

本寺の末傳を承て人の御本

以は大師他國院は法を

高き君室の御山也

ありんまは大師を奉る

三果余

梅尾山宮寺 五里余

本寺の末傳を承て人の御本

以は大師他國院は法を

高き君室の御山也

ありんまは大師を奉る

白鳥の 文白鳥林春日
石巻林の社南山清信
州なり

けこすのしとをのり
七里なり 船のついで
まことのついで 二名の
をのりしと 美徳しと
まのりしと

次の日記

大橋より寺町とて
毎日出るなり何とて
てまのりのついでとて
海尻村に寺町とて
津まのりしと

大橋より五丁

梅宮社 社名

梅宮社 社名
子ゆき子ゆき子ゆき
取和 幸申 神后 櫻林 女
ちまのりしと 美ひけしと
別ら 藤好しと 南社の
とまのりしと 美ひけしと
しと 美ひけしと 南社の
今も 老人の 南社の
美ひけしと 美ひけしと

六十四丁

・拉の十丁

智徳山は輪寺 七十八

本寺は唐の善徳の像が天
守の石に彫り出され
天平年中に遷す。善徳
二月十二日十二才の男
備して丹智と名づけ
難く未だその年を信す

六十四丁

・七丁

中尾明津社 九百五十八

本社大山津市村善徳
大正五年美奈郡置と入
人達直社は
別系四月十日日未
至六月土田中子也の月
あり

七十二丁

・八丁

兼宗山は輪寺 七十八

本寺は唐の善徳の像が天
守の石に彫り出され
天平年中に遷す。善徳
二月十二日十二才の男
備して丹智と名づけ
難く未だその年を信す

櫻東村

本寺は唐の善徳の像が天
守の石に彫り出され
天平年中に遷す。善徳
二月十二日十二才の男
備して丹智と名づけ
難く未だその年を信す

小塩山は輪寺 七十八

本寺は唐の善徳の像が天
守の石に彫り出され
天平年中に遷す。善徳
二月十二日十二才の男
備して丹智と名づけ
難く未だその年を信す

備前備後備前備後備前備後
備前備後備前備後備前備後
備前備後備前備後備前備後

山崎 備前備後備前備後備前備後

西園 備前備後備前備後備前備後

大徳寺

例祭に月八日山崎町の氏林

観音寺

中興及長良の増は地蔵寺

備前備後備前備後備前備後

補陀山 備前備後備前備後備前備後

備前備後備前備後備前備後

備前備後備前備後備前備後

備前備後備前備後備前備後

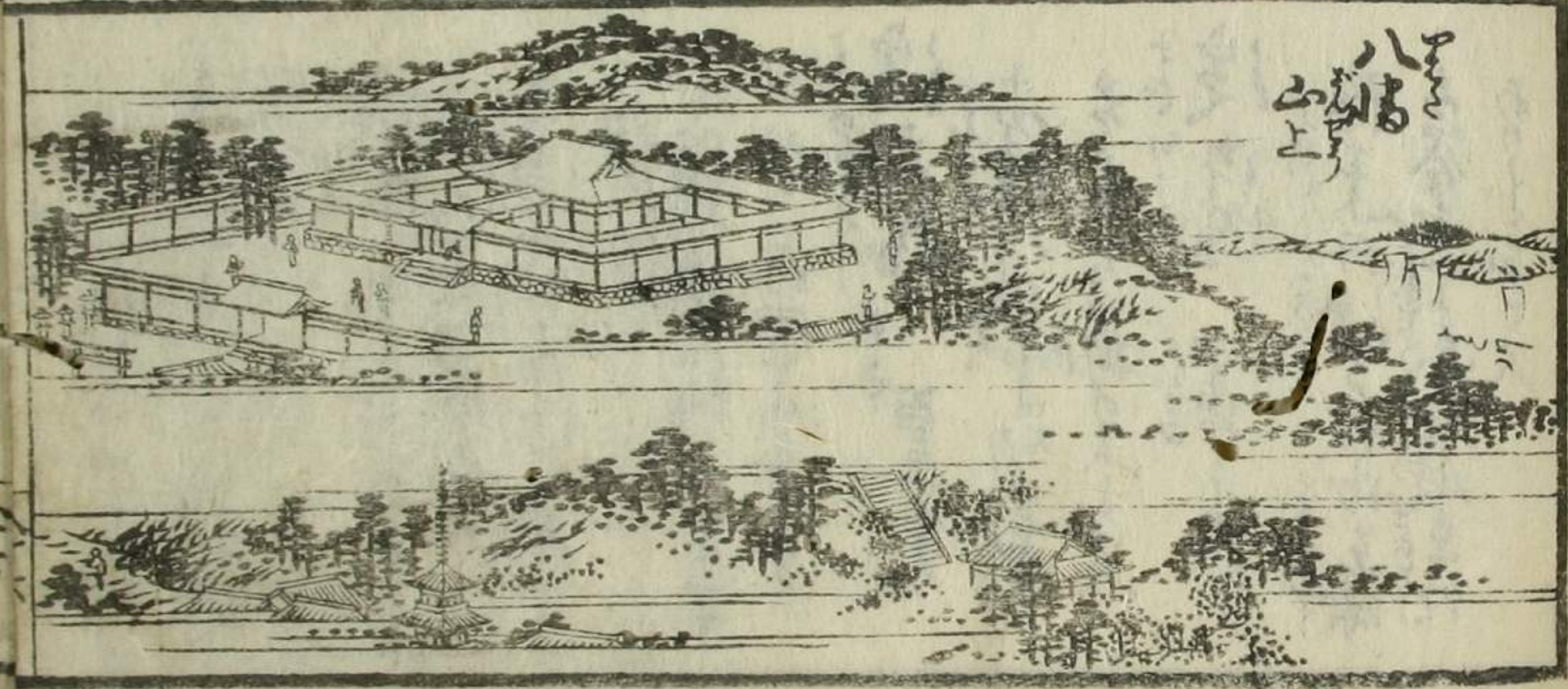
備前備後備前備後備前備後

妙喜庵 備前備後備前備後備前備後

備前備後備前備後備前備後

備前備後備前備後備前備後

備前備後備前備後備前備後



八幡
山

四
リ

離宮八幡宮 七百八

南は白糸九年四月
 形は細く
 山は高き
 法中
 情
 又
 以
 一

帆
の
波

後
 八幡
 山

石清水八幡宮

約ふ世あがらぬとせん家の
 跡後らふ。教の程の中き
 地務るる是物外あたひ
 回るは上るの難文の感
 るて保安に年寺とさす
 あゆもいふつひの程の
 かりり今もは後とらふ
 。いふより油中は道と未
 田尻もまら二日あや
 五里大橋は甲丁余
 一里余 安永寺にあり
十八丁
 土御門殿 梅ヶ谷村
七里をぬ
 天文はゆら月の西家
 泰山府君打井殿王社文
 と唱へ 天文もあかり
 一丁の西の南東より出る
 。あより甲丁のあし

三葉大橋へゆらう

九乃法

三葉大橋へゆらう
 向日明神まじり
 九十里余
 向日河より橋八
 三葉大橋まで
 九九里余

けふよ かくれり
 鞍馬の園大蛇のあし
 成実のさかき
 の方 松平山
 飛なんど名所
 うきうき
 畑つら

